

「ささえ」

2019 年 10 月発行 情報誌 第 69 号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田 4395 (福岡県立大学内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyogunet@sage.ocn.ne.jp

新 URL <http://npofukusiyogu.sakura.ne.jp>

情報誌「ささえ」は年 4 回(1 月・4 月・7 月・10 月)発行しています。

印刷 よしみ工産(株) 北九州市戸畑区天神 1 丁目 13-5

福祉用具はあなたの自立をささえます。

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします。

NPO福祉用具ネットは『抱え上げない介護技術』を推進します。写真のような介護はやめましょう。



洗髪シャワー



NPO福祉用具ネット開発品第 1 号

【製造元】

(株)福祉SDグループ

平成 27 年より、充電式も発売開始。【発売元】キヨタ(株)

**これまで、NPO福祉用具ネットが関わった
主な開発協力品** (現在は製造中止となっています。)



アルファブラ
ソラ クッション

SORA



尿吸引ロボ「ヒューマニー」



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育てていきたい・・・」

人の健康は靴選びから ～膝にやさしいシューズの紹介～

京都橘大学 健康科学部 教授 村田 伸

変形性膝関節症は 40 歳以上の 2 人に 1 人

膝の痛みや機能障害は、若年者から高齢者まであらゆる年代で発生する代表的な運動器の症状です。とくに、中高年者で発症する変形性膝関節症は、高齢者の要支援状態さらには要介護状態を引き起こす原因となっています。わが国における 40 歳以上の中高年者における変形性膝関節症の有病率は、男性で 42.0%、女性で 61.5%であり、X線で診断される変形性膝関節症の患者数は 2,530 万人（男性 860 万人、女性 1,670 万人）と推定され、それは 40 歳以上の 2 人に 1 人に相当します。

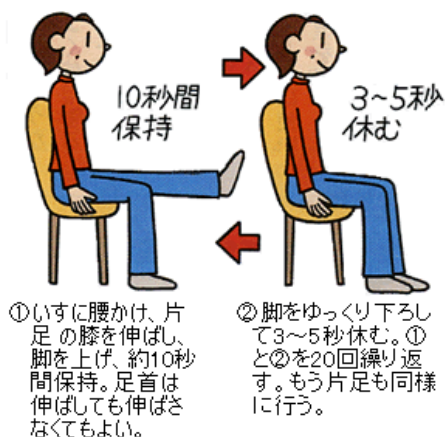
変形性膝関節症の特徴と症状

変形性膝関節症は、変形性関節症のなかで最も多く、「年をとって膝が痛い」という場合のほとんどがこの病気です。女性に起こることが多く、ほとんどが内反型、すなわち O 脚状の変形を伴い、病気が進むにつれて内側の関節面の軟骨がすり減っていきます。

典型的な症状は、長距離歩行時の痛みから始まり、正座ができなくなり、立ち上がりやしゃがみ込み、階段昇降がづらくなり、次いで歩行もしづらくなっていくといったものです。一方で、安静時の痛みは少ないのが普通です。時に水がたまることもあります。進行してくると O 脚状の変形が強くなり、膝は慢性的に腫れて大きく見え、曲げ伸ばしの角度が徐々に悪くなってきます。

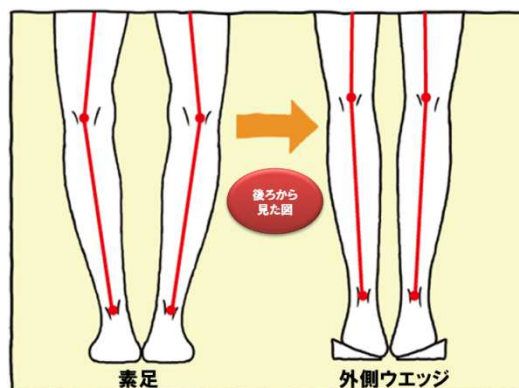
変形性膝関節症のリハビリテーション

疼痛や歩行障害が生じた変形性膝関節症患者は、運動療法や物理療法の適応となりますが、変形性膝関節症の治療ガイドラインでは、定期的な酸素運動、筋力強化運動、関節可動域運動を実施・継続することが推奨されています。筋力強化運動では、関節に負担を



かけずに行える大腿四頭筋の等尺性収縮運動がよく行われます。ただし、単調な運動であるため継続して実施するのが困難です。

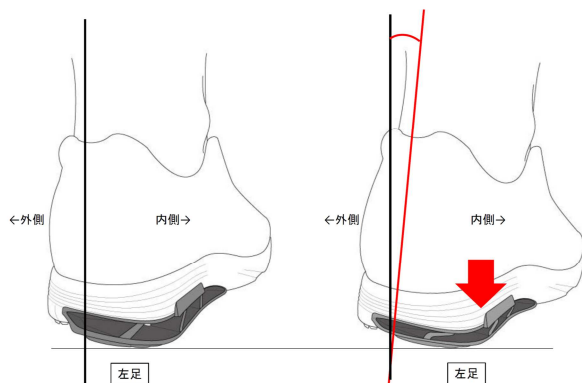
また、装具療法の一つとして足底板療法が盛んに行われています。なかでも、外側を高くした足底板である外側ウェッジは、内反変形を伴う変形性膝関節症患者によく使用されます。変形性膝関節症に対する外側ウェッジの介入効果を検証した先行研究では、膝関節内側部への荷重ストレスを軽減できること、さらには長期間の使用によって下肢アライメントの異常や内反変形の進行を抑制できることが明らかにされています。ただし、これまでの外側ウェッジを中心とした足底板は、靴のインソールにウェッジを付けるタイプや足部にベルトで装着するタイプの物であり、患者が装着時の違和感を訴えたり、皮膚接触部の痛みを訴えるケースを臨床上経験してきました。



シューズ開発の発想

そこで、足部と接触するインソール部分ではなく、

靴のミッドソールおよびアウトソール部分に改良を加えて、膝関節内反動揺を軽減させる構造の靴（膝内反軽減シューズ）をアシックス商事株式会社と共同開発しました。開発したニーズアップの特徴は、靴の後足部の内側に空洞意匠を施し、踵接地時に後足部内側が撓む構造としたことです。アウトソールはラバー、ミッドソール本体は合成樹脂発泡体（エチレン・ビニル・アセテート）、ミッドソール後足部内側の独立部材は熱可塑性ポリウレタンを用いて作製しました。踵接地時に後足部内側が撓む構造としたことにより、外側ウェッジと同様に機能的下肢軸が垂直方向に変位する

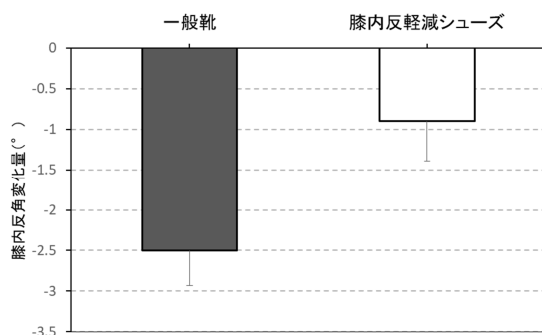


ことによって、膝関節への負担軽減を可能にしました。

膝内反軽減シューズの効果検証

効果検証は、福岡県にある角整形外科クリニックで変形性膝関節症と診断された通院患者21名を対象に行いました。対象者の内訳は、性別はすべて女性で平均年齢は 63.4 ± 8.0 歳（46～78歳）、平均体重は 59.0 ± 9.1 kg、平均身長は 154.7 ± 5.6 cm であり、X線所見による変形のグレード（Kellgren-Lawrence分類）はグレード1が2名、グレード2が4名、グレード3が8名、グレード4が7名でした。

まず、歩行中の膝関節の動きを電磁センサー式3次元空間計測装置で検証しました。膝内反軽減シューズを着用した歩行と一般に市販されている運動靴（アシックス商事社製TS-5021）を着用した歩行の2条件として、1歩行周期における初期接地および立脚中期の膝関節内反角を計測・比較しました。その結果、膝内反軽減シューズは一般靴と比べて歩行立脚期における膝内反を有意に軽減できることを確認しました¹⁾。



また、膝内反軽減シューズを履いて歩くと一般靴に比べて、ストライド長や歩幅が有意に広がり、歩行速度が速まることをシート式歩行分析装置で検証しました²⁾。さらに、膝内反軽減シューズを対象者に1ヶ月間履いて生活してもらうと膝の疼痛が軽減し、日常での活動性が高まることを Japan knee osteoarthritis measure (JKOM) で確認しました³⁾。

なお、介入研究は1ヶ月と短期間で行いましたが、膝内反軽減シューズを研究対象者に約1年間履き続けていただきました。対象者は、ほぼ毎日シューズを履いて生活していましたが、機能の要である外側ウェッジ構造を形成する空洞機能に支障をきたすような劣化は見られませんでした。また、空洞には小石など詰まった事象はなく、機能性にまったく支障がないことが確認できました。

膝内反軽減シューズは、上述した経過を経て、自信を持ってアシックス商事株式会社から「ニーズアップ」という商品名で市販されました。



西日本国際福祉機器展で報告します

ここまでお読みいただきありがとうございます。大山事務局長のご好意で、嫌々書かせていただきました。この内容は、西日本国際福祉機器展で11月14日に、またまた大山事務局長のご好意で、嫌々報告させていただきます。興味を持っていただいた皆様、ぜひお立ち寄りください。

引用文献

- 1) 甲斐義浩, 村田 伸・他: 変形性膝関節症患者の膝内反動揺を軽減できる運動靴の開発. 総合リハビリテーション, 46(11): 1087-1092, 2018.
- 2) 村田 伸, 甲斐義浩・他: 変形性膝関節症患者に対する膝内反軽減シューズの効果: 歩行に及ぼす影響. 保健の科学, 60(5): 349-354, 2018.
- 3) 安彦鉄平, 村田 伸・他: 内側型変形性膝関節症患者に対する膝内反軽減シューズの患者立脚型 QOL に関する効果. ヘルスプロモーション理学療法研究, 8(2), 71-75, 2018.

福祉機器開発等支援事業から生まれる 新しい福祉用具（第3回）

NPO福祉用具ネット 副理事長 坂田 栄二

法的規制も考慮して

福祉・介護の分野では、福祉用具（機器）に構造上、使用上の不都合があっても利用者自身で危険を回避することができず、事故化してしまうことがあります。このために法的規制や業界自主基準などが存在します。更に、経験深い企業では、**リスクマネジメント**をしっかり行い厳格な社内規格を構築しているところもあります。

介護の現場では、いつ、どんな事故やトラブルが起きるか想定できません。体調の変化や持病の急変、転倒など思いもかけない事故が起きます。

リスクマネジメントの重要性

それらの中に福祉用具の使用に伴って発生する事故があります。安全で質の高い生活を提供するための福祉用具が、事故発生の元凶となりかねません。

この事故を未然に防ぐために、メーカーは**リスクアセスメント**を行い、その結果をもって**リスク対応**を行うこととなります。

リスクアセスメントでは、リスクを発見し、認識し、記述する「**リスク特定**」プロセス、特定したリスクの特質を理解し、リスクレベルを決定する「**リスク分析**」、そのリスクの大きさが許容できる範囲の物かを決定する「**リスク評価**」のプロセスからなります。(wikipedia)

しかし、リスクを発見するには、長年の経験が求められます。その経験の中には、メーカーの検討不十分さが原因で改修や回収を行い苦い経験となったものも含まれます。

リスクマネジメントはノウハウのかたまり

つまり、リスクアセスメントの性格は、開発前のリスク予測だけでなく開発失敗の積み重ねであり、そのメーカーにとって長い期間と多額の費用とを投じて得たノウハウの一面も持っています。

従ってメーカーは、リスク内容やリスクの分析手法、リスクの評価に用いるレベルなど競合企業が利する内容を公開することはほとんどありません。企業にとって極めて価値の高い重要な資産なのです。しかも製品開発を繰り返すことによりどんどん成長する資産と言えます。

現場リスクの不詳は、新規参入の経営リスク

福祉分野に新規参入を考えている企業にとっては、

どんな**製品リスク**があるのか情報を持たないため、なかなか踏み出せません。明確に把握・分析しないまま突入すると、「**経営リスク**」となってしまいます。

しかし、企業は努力次第で一般に公開されている情報から多くのリスクを知ることが出来ます。そのいくつかを紹介します。

(1)テクノエイド協会：福祉用具ヒヤリ・ハット情報

独立行政法人製品評価技術基盤機構（Nite）が公表している事故情報と、当協会が高齢者介護に携わっておられる方々を対象に行ったアンケート調査の結果等をもとに福祉用具の利用に係わるヒヤリ・ハットを中心に公開しており、利用者の誤った使い方や、利用者の身体能力と用具の不適合等によりどんな事故が想定されるかを知ることが出来ます。

例えば、下の写真のように、落とし物を拾おうとして頭から墜落するケースなどが掲載（掲載番号1番）されています。



タイヤが浮いている。

そしてこのようなリスクを回避する機構を備えた車いすが下の写真のように商品化されています。



現在このようなリスクが、用具の種類と共に 361 件公開されています。

これらの情報は、リスク情報でありながら、ニーズそのものです。リスクに対応することで、新たな商品が生まれることもあります。

なお、この「ヒヤリ・ハット」情報には、**製品自体の不具合**については掲載されておりません。

(2)製品評価技術基盤機構（略：NITE）：製品事故情報

福祉用具や家庭用電気製品などの消費生活用製品に関する事故の原因調査や安全テストを行い、事故原因や事故の可能性を明らかにして、製造事業者や消費者に情報提供を行っています。

この情報によりますと、電気用品安全法、家庭用品品質表示法、消費生活用製品安全法の立場から、どのような設計・製造が問題を孕んでいるかを把握できます。

例えば、平成 25 年 3 月から平成 30 年 3 月までの 5 年間で介護ベッドや車いす、歩行器などの身の回りの製品をめぐる高齢者の事故が 1237 件あり、そのうちの 125 件は死亡事故、165 件が重傷事故だったこと、及びその事故詳細を知ることが出来ます。

(3)国民生活センター：消費生活相談情報

全国の消費生活センターから消費生活相談などの情報を収集し、公開しています。また、これらの相談内容で頻発する案件については、複数のメーカーの商品の安全テストを独自に行い、製造業者や消費者に安全の呼びかけを行っています。安全テストのテスト項目は、設計時に安全配慮すべき点として大いに参考になる内容です。

最近の掲載内容を抽出すると 25 件ありました。

国民生活センターの調査報告

開発着手時には、必ずチェックすること。安全情報・事故情報など公開。



「自分の商品と違う」と思わずに、共通点を探し、当てはめてみる事。

(4)経済産業省：消費生活用製品向けリスクアセスメントのハンドブック

消費生活用製品を対象として、できるだけ安全性の確保された製品を設計開発し、市場へ供給していくために、前述したテクノエイド協会やNITE

などの情報を含めて、参考になるリスクアセスメントの考え方と実践方法の基本を紹介しています。

高齢者が利活用する「製品設計では、その製品や類似の機能・構造の製品で発生した事故や危害等を参考に対応を考える」という従来の手法に加え、その製品に固有の潜在的なリスクおよび使われ方によるリスクを想定したリスクアセスメントの実践が求められている」（当ハンドブックより引用）と呼びかけています。

これまでの経験から、大変参考になるハンドブックと言えるでしょう。

ここまで、福祉用具のリスク情報に関する色々な情報源をご紹介しましたが、これらの情報を見て「自分の開発する商品の種類と違う」と思わずに、共通点を探し当てはめてみるのが大切なことです。そして同時に経営リスクも払拭されたいかがでしょうか。

リスク対応

「リスクマネジメント」の中の「リスクアセスメント」について説明しましたが、この「リスクアセスメント」により導き出された「リスクの特定」が済みましたら次に「リスク対応」を行わなければなりません。

対応には、

- ①リスクが無くなるように設計変更してしまうこと（リスク源の除去）
- ②完全に除去できなくても事故の起こりやすさを低減すること
- ③他者とリスク内容を共有し責任を分担したり転嫁・分散すること（例えばリスクが顕在化した場合の損失補填：例えば損害保険を掛ける）
- ④対策を何もせずリスクを保有するなどがあります。発生頻度が低く、損害も小さいリスクの場合に適用することが多い。などがあります。

更に、商品開発時のリスクアセスメントには多くの時間をかけることが出来ますが、リスクが顕在化（公的機関の発表、マスコミ報道など）した場合の対応は迅速性が求められますので、開発時のリスク対応の検討の際はこの点も徹底しておく必要があります。

次に、これまで説明した規制やリスクアセスメントが実際の開発時にどのように関わってくるかを考えてみましょう。

（次号に続く）



患者になって初めて分かったこと



～患者家族の声～

患者家族 Hより

私は SNS をしています。その中で発信することは親の介護のことが多いです。つい先日、2年前の記事がポップアップしてきました。「過去の思い出を・・・」と SNS の会社がお知らせしてくれる仕組みです。そこには「私は、母親の介護にずいぶん時間を割いてきた。母親の容態が安定してきているので、これからはもっと父親との時間を増やすことにしよう。」と書いていました。その翌日に父親は入院し、皮肉にも宣言通り父親との時間が予想以上に増えました。このような内容のポップアップから2年間の介護生活を振り返り、これで良かったのか、もっと何かできなかったのかななどと自問自答しつつ、今後の介護の方向性を考えました。そして、「とどのつまり介護をする立場である自分自身が健康でなければ何もできないので、健康的な生活をおくれるようにしよう!」と、SNS に書き込みました。

そして、また皮肉なことが起きました。SNS で発信した翌日に私自身が脳梗塞を起こし10日間入院しました。幸い、軽い感覚麻痺が残った程度で2週間後は職場復帰できました。そんな入院生活で患者になり、初めて気づいたことを書きたいと思います。

私は一晩だけ、集中治療室に入りました。腕には血圧計と点滴、指先にはサチュレーション、体幹には心電図、鼻には酸素チューブ。体を動かさずらくあつという間に肩やら背中が強張り痛くなりました。T シャツなどの下着をつけないまま浴衣タイプの病衣を着て、胸がはだける、足があらわになる。意識ははっきりしているので、恥ずかしかったです。時折、血中酸素濃度が落ちるためアラームがピーピーなってるさし、周囲の人たちに申し訳ない。そんなこんなで全く眠れなかった初日でした。30分に一度の血圧測定のため腕にはめたままの自動血圧計は右の腕を占領しており、特に不快そのものでした。脇や肩を動かせないわけではないけれど、それがそこにあるということだけで、動きが制限されてしまいました。浴衣の裾が乱れるのが恥ずかしいから、仰臥位状態で足を動かすことも控えました。サチュレーションはとてもソフトだけれど、ずっとはめっていると痛い。特に、爪の端っこに変なあたり方をすると痛くて不快でした。酸素チューブは看護師さんが正しくセッティングしてくれた時は問題ないけれど、ずれてしまい自分でセッティングしなすとアウト。しっくりといかず、いつも気になって触っていました。翌日夕方からは点滴以外はすべて外れた

ので、ほんの短い経験でしたが、きつかったです。

きつい思いをしながら過ごした夜。

「両親はこういった状態が何カ月も続いてたんだな。色々なものから繋がれている不快な状態から少しでも楽になろうと、手を伸ばし足を動かして抵抗していたんだなあ。なのに触るな、外すなといったんだなあ。可哀そうなことをした。」と思いました。辛さは両親の様子から推測できても、理解できていなかったです。かといって、治療のために必要な機器をつないでいるのだから取り外すなんてできないこともわかっています。とりわけ父親は、一日数回の血圧測定になったにもかかわらず、他のモニターがまだ付いていたからか、血圧計は腕に巻かれたままでした。腕に巻いたままだと看護師さんは、モニターの血圧計のボタンを押すだけで済みます。時間短縮ができます。その数十秒の手間を省くために、父親は24時間、血圧計を腕に巻かれていました（真意はわかりませんが）。数日間ためらったあと、「必要ないなら、血圧計はその都度巻いて測定してもらえませんか?」とお願いしました。すると、「そうやねえ。うっとうしいよね。」といって、すぐに外してくれました。その時は、言ってよかったと安心したけれど、今思うと娘の私でさえ血圧計をはめたままは辛かったのだから、「お父さんはどれほどきつかったらうな。もっと早くいってあげればよかったな。」と、反省しています。

そんなことを考えながらの私の入院生活は、初日以外はとても居心地の良いものでした。自宅にいる時よりも緊張から解放されて（自宅では眠りにつく前に仕事のこと、親のことを考え寝付けません）睡眠もシッカリとれました。理由はスタッフの皆さんの「思いやり」行動でした。例えば、点滴の針を刺すときも、入りづらくなどうか失敗されるけど、本当に申し訳なさそうに謝られる。すると逆に私は「がんばれ～」と応援したい気持ちになり、一緒に針刺しに臨むような感覚でした。スタッフさんは「痛いですしょう?」「きつくはないですか?」など、私の立場にたった言葉を優しく投げかけてくれていたことが印象深いです。2年前の父の血圧計に関して、「はめたままはきついでしょう。」という相手の身になって考えるちょっとした思いやりがあると良かったかなと気づきました。病は怖いけれど、貴重な体験ができました。

『第21回西日本国際福祉機器展』のご案内

日時 2019年11月14日～16日3日間開催 10時～17時 最終日16時30分

会場 西日本総合展示場 新館 (小倉駅新幹線口より徒歩5分)

* NPO福祉用具ネット主催のセミナーの内、申し込みが必要なセミナーは2つあります。

3日間開催する『キネステ体験会』と、14日午後から開催する『抱え上げない看護・介護実践のポイント』申込み用紙は、NPO福祉用具ネットホームページから入手できます。その他のセミナーは申込不要です。

第21回 西日本国際福祉機器展 NPO福祉用具ネットセミナー情報(確定) 合計22のセミナー開催 (主催 NPO福祉用具ネット / 共催 九州抱え上げない看護・介護推進チーム他)				
NPO福祉用具ネットのフース内セミナー (フース内セミナーは申込不要 参加無料 定員 約30名～40名)				特別企画 (一部申込必要のセミナーあり)
	2019/11/14 木曜日	2019/11/15 金曜日	2019/11/16 土曜日	フース内体験コーナーは3日間 随時対応します!
10時30分～11時30分	腰痛対策講座 医療・福祉業界の働き方改革 ～抱え上げない看護・介護で 魅力的な職場に！～ NPO福祉用具ネット理事 山形茂生氏 (OT)	排せつケア講座【心と体のケアのために】 要介護者の排せつ時の心と声に 気をつけていますか！ 排せつケア対応商品紹介とおむつの当て方のポイント 中尾三枝子氏 (おむつフィット1級・介護福祉士)	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護技術 ⑦ 姿勢管理と抱え上げないケアの必要性 と身体の使い方 ななめは高知 安武哲宏氏 (OT)	ブース体験コーナーにて随時技術指導 ① 体圧センサー体験 寝心地、座り心地の差異 寝心地、座り心地、圧感、ポジショニングの違いをセンサーで確認してみませんか？
11時45分～12時45分	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護技術 ① グループでの圧感 大分ほつとケアネットワーク 山形茂生 (OT)/大庭典子氏 (介護福祉士)	排せつケア講座【何と、他人の排泄の人の便溺を接触】 高齢者だけではなく排せつ時の悩み 諦めていませんか！失敗は戻りだけではない！ トイレに間に合わない便による下着汚染 少量の便漏れ対応商品が誕生！ ユニ・チャーム 開発企画部 鈴木未央氏	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護技術 ⑧ 立ち上がり移動 ボードの使い方 HIGOよかけネットワーク(熊本) 小林智和氏 (ヘルパー・福祉用具プランナー管理指導者)	② 抱え上げない看護・介護のための技術体験コーナー グローブ・リフト・ボード・シート・ポジショニング方法・ベッドの正しい使い方など ③ 新しい排せつケア用品や災害時の対応用品もご紹介
12時～14時	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護技術 ② スライディングシーツの使い方 SAGAあたりまえケアネットワーク(佐賀) 塚原大和氏 (PT)	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護推進のための 技術認定チェックの取り組み紹介 NPO福祉用具ネット理事 大山美智江 (看護師)/山形茂生氏 (OT)	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護技術 ⑨ スタンディングマシンの選び方・使い方 ななめは高知 安武哲宏氏 (OT)	2019/11/14 午後 AIM 311教室 AIM3階311会議室 13時～14時 定員60名 無料 ひざが痛い方必見！ 人の健康は靴選びから ～膝にやさしいシューズの紹介～ 京都造形大学 健康科学部 教授 村田伸氏
14時15分～15時15分	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護技術 ③ 座位姿勢と姿勢修正 SAGAあたりまえケアネットワーク(佐賀) 若本幸子氏 (PT)	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護技術 ⑤ リフトの使い方 大分ほつとケアネットワーク 山形茂生氏 (OT)	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護に役立つキネステ技術 ～ひとにやさしい身体の動き方とは！～ NPO福祉用具ネット理事 海尾美幸子氏 (PT)	AIM3階311会議室 14時30分～16時30分 (有料 500円) 【パート1】定員60名 抱え上げない看護・介護の実践のポイント ～マネジメント支援の取り組みとは～ (一社)福岡ナチュラルハートフルケアネットワーク 代表 櫻木美穂子氏 (OT)
15時30分～16時30分	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護技術 ④ ベッドポジショニングの基礎 SAGAあたりまえケアネットワーク(佐賀) 塚原大和氏 (PT)	腰痛対策講座 抱え上げない看護・介護技術 ⑥ 寝返りと起き上がり ななめは高知 白石源成氏 (OT)		【パート2】定員60名 抱え上げない看護・介護実践のポイント ～目標設定・行動計画とは！～ (株)cocotama NPO法人心の絆 (NPO福祉用具ネット監事) 代表 佐々木寿生氏 (産業カウンセラー)
【体験コーナー】九州地域のななめはの皆様、大分ほつとケアネットワークの皆様、NPO福祉用具ネットのメンバーが協力して技術をお伝え致します。 指導担当(敬称略) 山形・小林・塚原・中尾・安武・若本・大庭・鈴木・石塚・井内他				
特別企画 新館3階 301会議室 (有料700円) 定員 各コース15名まで 各コースは同じ内容ですので、ご都合の良いコースをお選びください。				
キネスティクス® 体験講座 10時30分から 12時30分	抱え上げない看護・介護に役立つ キネスティクス®体験会 午前の部 Aコース	抱え上げない看護・介護に役立つ キネスティクス®体験会 午前の部 Cコース	抱え上げない看護・介護に役立つ キネスティクス®体験会 午前の部 Eコース	
キネスティクス® 体験講座 13時30分から 15時30分	抱え上げない看護・介護に役立つ キネスティクス®体験会 午前の部 Bコース	抱え上げない看護・介護に役立つ キネスティクス®体験会 午前の部 Dコース		

NPO福祉用具ネットフース企画展示協力企業一覧		排せつケア用品紹介コーナー	
(特非) NPO福祉用具ネット	排せつケア用品の紹介・膝にやさしい靴の紹介 抱え上げない介護技術の活動紹介	ユニ・チャーム(株)	新商品『軽い便レバッド』の紹介
福岡県立大学福祉用具研究会	20年間の福祉用具研究会の活動紹介	ニシキ株式会社	布パンツ・軽失禁用下着の紹介 新製品 履くシート紹介
『抱え上げない介護技術』体験コーナー		朝日産業(株)	・集尿器『Mr. ユリナー』・『ダンディユリナー』 ・新商品『介護用おむつセンサー』の紹介
九州抱え上げない介護プロジェクト	抱え上げない介護技術指導 各地域の活動情報	日本セイフティ(株)	自動ラップ式トイレ「ラップボン・エール2」 移乗しやすい肘の跳ね上げタイプ
(株)cocotama	介護職の離職防止に向けて、労働衛生の視点から職場の マネジメントのためのセミナープログラム紹介	三島光産(株)	試作品 介護施設・病院用 お尻洗浄器 『さらり洗浄』のご紹介
(有) 三電	介護リフト体験	防災用品紹介コーナー	
(株) タイカ	床ずれ防止用具とポジショニングクッション体験	(株)タイカ	新商品 災害備蓄用高機能マットレス 緊急時に担架代わりになる『αPLA R』 避難用簡易保護帽『でるキャップ』 子供用『でるキャップ for kids』『でるキャップ for school』
住友理工(株)	姿勢の変化、心地よさをSRセンサーで体験 新製品 SRソフトビジョン足圧版紹介	日本セイフティ(株)	災害対応 新商品 組立てトランク型自動ラップ式トイレ 『ラップ・トレッカーWT-4』
(株) ブラッ	ポジショニングベッド体験 (技術体験コーナー使用ベッドの提 供) 新製品 食事介助のしやすいオーバーテーブル紹介	三島光産(株)	参考出品 災害対応 簡易浴槽とシャワー
協力 (株) クローバー	移乗機器(スタンディングマシンの)体験		
福岡ひとにやさしい介助を考える会	キネスティクス®の紹介 毎日体験会開催		

事務局だより

《令和元年7月から9月までの事務局のうごき》

令和元年6月追加

6月1日 開発相談
6月4日 開発相談
6月5日 開発相談
6月9日 技術研修会 第1ステップ 1回目
6月10日 開発支援
6月11日 開発支援 新規事業打合せ
6月16日 リーダーシップとコミュニケーション
研修会
6月19日 開発相談
6月21日 第3回 福祉用具研究会
6月24日 開発相談
6月27日 開発相談

情報誌ささえ 68号 編集・校正・印刷・発送

令和元年7月

7月情報誌ささえ 68号発行・発送

西日本国際福祉機器展企画の調整と準備

来年度新事業の企画・調整

7月1日 役員変更届 NPOセンター書類提出
7月2日 開発相談 事例相談
7月3日 ケアテックス展示会
7月4日 開発相談 3件
7月7日 技術研修会 第1ステップ 2回目
7月8日 開発相談
7月10日 開発相談
7月11日 高知へ出発
7月12日 開発相談
7月12日・13日 高知展示会・セミナー聴講
7月14日 高知より帰着
7月18日 新事業打合せ
7月20日 キネステティクス®研修会
ベーシック・アドバンスコース 1日目
7月22日 開発品検証 大川市
7月23日 福祉用具研究会
7月24日 開発相談
7月25日 開発相談
7月26日 開発相談
西日本展示会セミナー企画書提出
7月27日 開発品モニター交渉
7月29日 開発相談
7月30日 開発相談
7月31日 開発品モニター依頼

令和元年8月

8月3日 技術認定チェック補習試験
抱え上げない介護チーム懇親会大任町
8月4日 技術研修会 第1ステップ 3回目

西日本新聞社 ノーリフティング取材

8月6日 開発相談
8月8日 開発相談
8月9日 開発相談 3件
8月14日 西日本展示会企業新製品紹介原稿提出
8月16日 事例訪問
8月17日・18日 キネステティクス®研修会
ベーシック・アドバンスコース 2・3日目
8月19日 事例訪問
8月20日 事例訪問
8月21日 福祉用具研究会
事例訪問
8月22日 事例訪問
8月24日 新事業打合せ
8月26日 事例相談 開発相談
8月29日 開発相談
8月30日 開発相談 2件

令和元年9月

9月2日 開発相談×2件
9月3日 事例訪問
9月5日 事例訪問・開発相談
9月6日 開発相談
9月8日 技術研修会 第1ステップ 4回目
9月10日 事例訪問
9月11日 開発相談・事例訪問
9月12日 事例訪問
9月13日 開発相談
9月14日 開発相談
9月17日 事例訪問 開発相談
9月19日 事例訪問 福祉用具研究会
9月20日 研修会企画会議
9月25日・26日・27日 東京国際福祉機器展
情報誌ささえ 69号 編集・校正・印刷・発送

《今後の予定10月から12月まで》

10月5日 研修会企画会議
10月6日 技術研修会 後半の部①
10月13日 フォローアップ研修会
11月3日 フォローアップ研修会
11月13日 西日本国際福祉機器展会場設営
11月14日～16日 3日間
西日本国際福祉機器展出展・セミナーの開催
11月24日 技術研修会 後半の部②
12月14日 忘年会予定
12月14日・15日 キネステティクス®研修会
ベーシック・アドバンスコース 1日目・2日目
12月22日 技術研修会 後半の部③

情報誌ささえ 70号発行準備